魚沼市に暮らす生きものたち

～魚沼市自然環境保全調査報告書概要版～

魚沼市の自然は本当に豊かなの？

*

魚沼市は山々に囲まれ、多くの清流が流れる、自然が豊かなところです。
しかし、そこにどんな動植物が生息しているのか、どれだけ自然が豊かなのか、
その詳しい状況についてはあまり分かっていませんでした。
そこで、市は平成２３年度から身近な里山を中心に、植物・鳥類・昆虫の
生息状況を調査してきました。
その結果、市内には多くの絶滅危惧種を含む様々な
生きものがすんでいることが、少しずつですが分かってきました。

色々なところで
調査を行っています！

この生きものの
名前を知っていますか？

次のページで、これまでの調査で確認できた生きものたちを紹介します。
このパンフレットや図鑑を持って探しに出かけてみましょう！

※各ページの調査箇所数、確認種数は平成 23 年～26 年度の集計値です。

【植物】

調査箇所数：延べ 44 箇所
確認種数：869 種（うち絶滅危惧種 45 種）
※確認種数は平成 28 年 3 月現在の暫定値であり、今後の精査で変更となる場合があります

◎：新潟県の絶滅危惧種　★：環境省の絶滅危惧種

大？発見！魚沼市にもありました！

◎エチゴルリソウ

ワスレナグサのなかまで、北陸地方に分布します。盗掘などで、数が減っています。魚沼市は、新潟県で最も海岸から遠い（内陸の）産地です。

◎ホザキノミミカキグサ

湿地（ヤチッコ）に生える小さな食虫植物です。湿地が少なくなっているので、どこでも絶滅が心配されています。

◎ムシクサ

新潟県でも生えている所が少なく、魚沼市で発見されたのは大きな成果です。実にゾウムシの幼虫が入っていることが多いので、名前がつきました。

イヌアワ

エノコログサ（猫じゃらし）のなかまで、新潟県では北部にしか生えていないと思われていました。市内で見つかったことは、注目に値する調査結果です。

ウラシマソウ

新潟県では海に近い場所を中心に見られ、魚沼市には無いと思われていました。長い糸のようなものを、浦島太郎の釣り糸に見立てた名前です。

昔はあったのに… 見かけなくなった植物（絶滅危惧種など）

※植物の保護は本来の生息地で行うことが大切です。他の場所に移植したり他所から持ち込んだりすることは避けましょう。

◎★オキナグサ

盗掘などで、全国的に絶滅した所が多い花です。広神西小学校の児童が保全に努めています。実の白毛を「おじいさんの髪の毛」と見立てた名前です。

アキノキリンソウ

昔は、田んぼのあぜ道や土手によく見られ、稲刈りや秋の景色を思い出させる花です。害草とされるセイタカアワダチソウ等のなかまです。

◎オミナエシ

かつては、荒れ地や草刈り場でよく見られました。秋の七草の一つですが、生け花にして古くなると、とても嫌なにおいがします。

◎リュウキンカ

（エンコウソウ）

ミズバショウ、ニッコウキスゲと並んで尾瀬で有名な花です。昔は家の近くの小川などで見かけました。葉の柄を、ストロー代わりにして遊びました。

少なくなった水田の植物

◎★サンショウモ

水のきれいな田んぼや池に浮かんでいた、ゼンマイやワラビと同じ「シダ植物」です。絶滅危惧種ですが、何箇所かに生き残っていました。

ヒルムシロ

湧き水のある田んぼや池でよく見かけました。血を吸う「ヒル」が座るむしろという名前です。方言でも、「ヘルモ」と呼ぶところも多いようです。

◎★ミズマツバ

目立たない小さな草ですが、よく調べるとあちこちの田んぼに残っているようです。しかし、数も少なく、大きなものにはあまり出会えません。

子供の頃に口に入れた花

ウラジロヨウラク

小さな下向きの花に近づくと、虫をよぶ甘いかおりがします。花の底の蜜のある部分を吸ったり、花をそのまま食べたりしました。

ウツボグサ

道わきに多かったのですが、かなり少なくなりました。「ホタル草」と言う人もあります。花を一つずつ取って、蜜を吸いました。

ヤマツツジ

「田植えツツジ」とも言って、花を食べて酸っぱい味を楽しみました。同じ頃に咲くレンゲツツジは、「馬ツツジ」とよんで食べません。

イワナシ

多くの方が「スッパツ」としてご存じでは？
10cm ほどの小さな木で、ピンクの花がきれいです。“がく”を除き、粒々のある実を食べました。

ひとくちコラム

花粉症の人が増え始めた頃、原因とされた「ブタクサ」が有名になりました。見たことがあるでしょうか？　魚沼市でも、荒れ地や河川敷等でよく見られます。

外来魚のブラックバスを池に放すと、他の魚を全て食べつくすほどだと言われ、その池の生物多様性はうんと少なくなります。生き物の世界では、多様性が大きい（様々の生き方をする多くの種類がある）と、その社会はしなやかで強くなります。伝染病や他の生物の侵略に対する抵抗力が増し、ダメージからの回復力も大きくなります。ブタクサやセイタカアワダチソウ等の外来の植物は、多様性の少ない場所で繁茂することが多いのです。

よく言われますが、昔から日本にあるタンポポは、家の近くではめったに見ることができなくなりました。ほとんどは、セイヨウタンポポです。日本で生きてきた花々がずっと咲き続けられる環境を保全することは、人の生活環境を守るという意味でも大切なことです。

【鳥類】

調査箇所数：延べ 14 箇所
確認種数：79 種（うち絶滅危惧種 14 種）

◎：新潟県の絶滅危惧種　★：環境省の絶滅危惧種

家の近くや街中でも見る鳥

◎アオバズク

名前の通り青葉の季節に渡ってくるフクロウの仲間。街中でも神社などの大きな木で子育てします。「ホッホッー」と聞こえる声で繰返し鳴きます。

◎★ハヤブサ

カラスくらいの大きさの猛禽類。高いところから急降下して小鳥を捕まえます。羽根の先がとがって見えます。鉄塔や高い木の上にとまっている姿を見ます。

イワツバメ

家の玄関先やアーケードに巣を作るツバメより尾が短くのどに茶色がありません。橋の下、スノーシェッドなどに集団で巣作りします。ここ数年数が減っています。

水辺で見る鳥

カルガモ

春から夏にかけてたくさんの雛を連れている姿でおなじみです。通年で見られ、冬には大きな群れで魚野川など水辺にいます。最近は減少傾向にあるように思われます。

◎オシドリ

オスの姿が美しいカモ。市内の川やダム湖で冬から初夏につがいで目にします。大きな木の穴（うろ）で雛をかえしてメスが子育てをします。

カワアイサ

冬に市内の河川で数羽の群れで見られます。オスの頭は緑黒色、メスはオレンジ色です。潜って魚などを食べます。

カワウ

魚野川で通年見られるようになりました。夏場には 100 羽を超える大きな群れで移動する姿を見ることがあります。水に潜って魚を食べるので漁業被害が心配です。

アオサギ

灰色の大きなサギ。集団で杉の木などに巣を作ります。昔は干潟に大きな巣の集団（コロニー）を作りましたが、最近は市内各地に分散しています。川で魚を食べます。夜も「グワー」と大きな声で鳴きます。

◎イカルチドリ

川原や広く開けた平らな場所で見られる、スズメより少し大きいチドリの仲間です。「ピオピオ」と鳴きます。新潟県の準絶滅危惧種に加えられましたが、魚野川では普通に見られます。旧小出町の鳥でこまみの湯のマスコットです。

カワセミ

青い背中にオレンジのお腹のスズメ大の水辺の鳥。水に飛び込んで魚をつかまえます。魚沼市の水辺で普通に見られます。旧小出町の鳥でこまみの湯のマスコットです。

林や山で見る鳥

◎★サシバ

春に南から渡って来てくるカラス大のタカ。「ピックイー」とよく鳴きます。子育てを終えて秋に南に移動するタカの渡りで知られています。

◎★イヌワシ

羽根を広げると２mにもなる大型のワシ。開発や人工林の増加などの影響で絶滅の危機にあります。国の天然記念物。

◎★クマタカ

山地の森林に生息し羽根を広げると1.5m程度の大きさになります。ノウサギ、ヤマドリ、ヘビなどを餌としており、森林環境の変化により絶滅が心配されています。

◎★サンショウクイ

春に渡ってくる夏鳥。ヒヨドリと同じくらいの大きさで「ヒリヒリ、ヒリヒリ」と鳴きながら飛びます。魚沼では普通に見られますが、絶滅危惧種に指定されています。

サンコウチョウ

リボンのような長い尾と「月・日・星・ホイホイホイ」と聞こえるさえずりが特徴です。杉林が育った為かここ数年数が増えて春の観察会で毎年観察できています。近年、新潟県の絶滅危惧種から外れました。

◎★チゴモズ

頭が灰色でモズよりくちばしが太いです。春に繁殖に渡って来て魚沼市では平地近くの林でも見られます。「ギチギチ」と目立つところで鳴きます。近年、数が減っていて絶滅の危機に瀕しています。

ウグイス

魚沼市の鳥。緑色（ウグイス色）ではなく茶褐色でスズメ位の大きさです。藪の中で「ホーホケキョ」と鳴くので声をよく聞きますが、姿は見つけにくいです。

キビタキ

オスは黒と黄色のきれいな目立つ姿で「ピッコロ・ピッコロ」とさえずります。春に渡って来て林や山で子育てします。最近は里山の環境の変化のせいか増加傾向にあります。

オオルリ

春の野山を代表する鳥。オスはコバルトブルーの頭と青い背中が美しいです。目立つ場所で「ピールリ」と美しいさえずりでメスを呼んで縄張りを宣言します。

◎★ノジコ

スズメ大でお腹の黄色がきれいな鳥です。春に山の林に渡って来ます。魚沼地方は生息密度が高いが分布が限られています。

ひとくちコラム

市内には河川、ダム湖、森林、山岳など豊な自然環境があり、それぞれの場所に適応した多くの野鳥がいます。年間通して同じ場所にいる鳥だけでなく、ツバメやハクチョウのように季節によって渡って来る鳥などもいるので、季節や場所を変えてどんな鳥がいるのかを調査しています。調査の結果とこれまでの観察記録を合わせると、今までに市内で 206 種の野鳥が観察されています。

鳥は環境が悪くなると都合の良いところへ飛んで行くことができます。つまり、どのような種類の野鳥がどれくらい観察できるかで、その場所の環境の状態を知ることが出来ます。魚沼市にはイヌワシ、クマタカ、チゴモズなどのように人がもたらす環境の変化で数が減り、絶滅が心配されている野鳥も生息し続けています。また、過去に減少が心配されたカワウ、キビタキ、サンコウチョウなどは、近年、増えている事が調査を通じて分かってきました。魚沼市の宝である豊かな自然を詳しく調べ、そして、守るためにはどうすれば良いかの検討が始まっています。

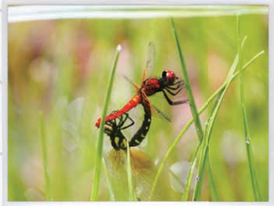
※写真提供：桑原和寿・池田修・角屋禮士

【昆虫】

調査箇所数：トンボ延べ 10 箇所　チョウ延べ 11 箇所
確認種数：トンボ 49 種　チョウ 58 種
（うち絶滅危惧種　トンボ 3 種　チョウ 5 種）

◎：新潟県の絶滅危惧種　★：環境省の絶滅危惧種

山地の湿地や浅い池、休耕田で見られるトンボ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊



ハッチョウトンボ

全長 ♂17-21mm
♀17-21mm
♂は成熟すると全身が真赤、♀は黄色と褐色の縞模様をもつ、日本一小さいトンボで、環境指標性昆虫でもあります。草丈の短い植物が繁茂する山地の湿地や休耕田に生息します。

ハラビロトンボ

全長 ♂33-42mm
♀32-39mm
腹部が扁平な小型のトンボ。♂は成熟すると青白い粉を帯び、♀は黄色で細かな斑紋が並びます。浅い池や湿地、休耕田に生息しています。

★マダラナニワトンボ

全長 ♂35-40mm
♀34-40mm
成熟しても赤くならない赤トンボ。連結したまま産卵します。山地の樹林に囲まれた水質良好な浅い池や湿地に生息しています。

エゾイトトンボ

全長 ♂30-39mm
♀30-40mm
♂は成熟すると青みが増し、♀の斑紋には緑色と青色があります。♂の腹部 2 節に♠状の黒い斑紋があります。山地の透明度の高い池沼に生息しています。

水田や開けた池沼・農地、農業用水池で見られるトンボ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

アキアカネ

全長 ♂32-46mm　♀32-46mm
♂は成熟すると腹部が赤化、♀は腹部が淡褐色になります。馴染みの深い赤トンボですが、全国的に激減しています。水田、池沼、湿地に生息しています。

ノシメトンボ

全長 ♂37-51mm　♀37-51mm
翅の先に褐色斑があり、♂は成熟しても赤くならない、暗赤褐色の赤トンボです。顔面に眉斑がある個体とない個体があります。池沼、湿地、水田に生息しています。

ショウジョウトンボ

全長 ♂41-55mm　♀41-55mm
♂は成熟すると全身が鮮やかな赤色になります。♂♀とも翅の基に橙色斑があります。平地から山地の開放的な池沼や湿地、山地の水田にも生息しています。

開放的な池沼や農業用水池で見られるトンボ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

チョウトンボ

全長 ♂34-42mm　♀31-38mm
美しい黒藍色のチョウのような翅をもつ、珍しいトンボです。平地から山地の水生植物が繁茂している池沼等に生息しています。

オオルリボシヤンマ

全長 ♂76-94mm　♀76-93mm
♂は斑紋が青くなり美しく、♀の斑紋は緑と青色の 2 型があります。平地から山地の林に囲まれた水生植物が繁茂する池沼等に生息しています。

ギンヤンマ

全長 ♂67-83mm　♀65-84mm
胸が緑色、♂は腹部に水色の斑紋をもち、♀の腹部は黄緑色が多いです。平地から山地の開放的な池沼に生息しています。

樹林のある川や小川、流れのある湿地で見られるトンボ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

オニヤンマ

全長 ♂82-103mm
♀91-114mm
日本で一番大きいトンボです。♂♀とも黄色と黒色の縞模様です。平地から山地の樹林のある川や小川、流れのある湿地に生息しています。

ニホンカワトンボ

全長 ♂50-68mm
♀47-61mm
♂の翅は、橙色・淡橙色・無色の 3 型が、♀は淡橙色と無色の 2 型があり、地域によって異なります。林のある清流に生息しています。

山地の雑木林、森林で見られるチョウ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◎★ギフチョウ

中型
食草：カンアオイ類
黄白色と黒の縞模様で、後翅には赤色や青色の斑紋があります。早春に羽化しカタクリの蜜等を吸います。山地の落葉広葉樹林、森林、管理された林に生息していますが、全国的に減少しています。

ミヤマカラスアゲハ

大型
食草：キハダ等のミカン科
青緑色を主とした鱗粉と後翅の赤斑紋が美しいチョウです。ツツジ類やアザミ類など各種の花に来ます。山地の樹林帯に生息し、チョウ道をつくります。

サカハチチョウ

小型（季節型有）
食草：イラクサ科
春型は黒色と橙色を主とした斑紋、夏型は黒色で中央に白帯があり、裏は赤褐色です。山地の林縁の草地や林道、渓流に見られます。

アサギマダラ

大型
食草：ガガイモ科
淡い水色の翅、周りが黒色、後翅が赤褐色で鱗粉のないチョウです。春、北へ移動して山地へ、秋になると南下します。ヒヨドリバナやフジバカマの花を好みます。

山地から農地、公園、人家等で見られるチョウ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ゴマダラチョウ

中型
食草：エノキ等のニレ科
黒色の翅に白斑が散らばっています。平地から山地の落葉広葉樹林、雑木林、公園や人家周りの林に見られます。

アゲハ

大型
食草：サンショウ等ミカン科
黄白色の翅の翅脈に沿って黒色の模様が見られ、後翅には青色と赤褐色の斑紋があります。平地の人家から山地まで広く生息しています。

ジャコウアゲハ

大型
食草：ウマノスズクサ科
♂は黒く細長い翅と長い尾状突起が特徴（♀は黄灰色）で、後翅には赤色の斑紋が並んでいます。ウマノスズクサが見られるところに生息しています。

ヒメアカタテハ

中型
食草：ヨモギ等のキク科　イラクサ科
黒色の翅に、赤色から赤桃色が広がり、前翅には白色斑があります。平地から山地の草地、農地、河川堤防などに広く生息しています。

ひとくちコラム

里山を中心に 3 年間トンボとチョウを調査した結果、たくさんの種類のトンボとチョウを確認することができました。その中には、絶滅危惧種や生息環境などによる貴重種等が生息していることが分かりました。これらの昆虫が、これからも魚沼市の自然界で共に生活していけるようにしていきたいものです。

トンボは田んぼや池、川の中の泥や植物等に産卵してヤゴとなり、1～3 年でトンボに羽化します。ヤゴがすめる田んぼや池、川や湿地の環境が重要になります。最近、全国的に赤トンボ（アキアカネ）が激減し、その原因は田んぼに使う農薬ともいわれています。赤トンボがたくさん飛び交う魚沼にしたいものです。

チョウは、人家周り・公園・畔・野原や林に咲いている草花の蜜や樹液を吸って生活しています。また、チョウは種類によって産卵する植物が異なります。蜜が吸えるように花を育てたり、産卵する草花を大切にしたりすることで、たくさんのチョウが舞う魚沼になります。

みんなで自然を大切にしましょう！

自然環境保全調査について

（魚沼市自然環境保全調査委員会　石沢 進 委員長）

これまでの調査は、里山（人の生活圏内）における生物多様性の状況把握でした。鳥類に関しては過去の調査結果と併せてほぼ全容が、チョウ・トンボ類についても概要が明らかにされたと見られます。植物は、約50種の絶滅危惧種を含め860種ほどが確認され、稀産種や分布限界の種の実態把握が進んでいます。これらによって、魚沼市の「豊かな自然環境」の姿が具体的に解明されつつあります。

調査が、市民の直接参加で行われた意義は極めて大きいものです。

毎年のセミナーで結果が市民に還元され、身の周りの生きものに対する関心も高まり、これからの自然環境の保全に大きく貢献するものと期待されます。今後は、調査範囲と調査対象の拡大や、行政と市民が協働する環境保全の仕組み作りなどが課題でしょう。

セミナーの様子

生きものはみんなつながっている。

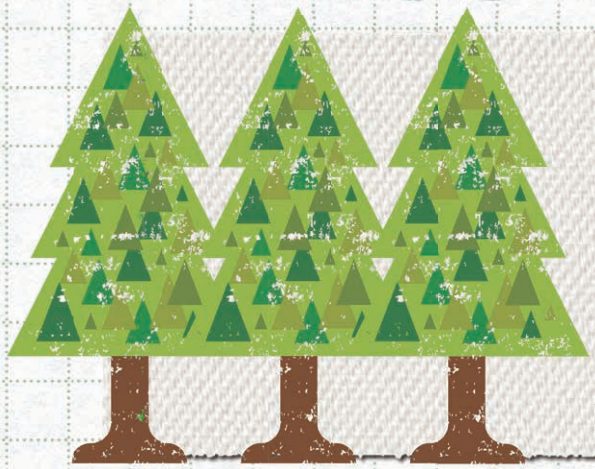
生きものは自然の中で、お互いが食べたり食べられたり、また死がいやフンが養分になったりして、それぞれがつながって生きています。この生きもののつながりが、どれか一つでも失われると、ほかの多くの生きものも生きていくことができなくなります。

この生きもののつながりには、昔から山や川を利用して生活してきた私たち人間も含まれています。しかし、ごみの投棄や地球温暖化、里山を利用しなくなったなどの人間の生活の影響による生息環境の変化、商業目的や趣味のための乱獲によって絶滅の危機に瀕している生きものが多くなっています。

これまでの生活を見直し、ごみのポイ捨てをしない、省エネに取り組む、むやみに動植物を取らないなど、かけがえのない自然を次の世代に引き継いでいくために自分に何ができるか、みんなで一緒に考え、行動しましょう。

調査に参加しませんか？

これまでの調査によって多くの生きものが確認されましたが、
広い魚沼市の自然の状況を明らかにするためには、
今後も調査を継続していく必要があります。
市では、調査の際の標本採取や整理等のお手伝いをしていただく
「調査ボランティア」を募集しています。
魚沼の自然や生き物に興味がある方は、ぜひ私たちと一緒に活動しましょう！
※詳しくは環境対策室にお問い合わせください。



魚沼市に暮らす生きものたち
～魚沼市自然環境保全調査報告書概要版～
発行：魚沼市環境課環境対策室
〒946-8601　新潟県魚沼市小出島130番地1（小出庁舎）
TEL：025-792-9766　FAX：025-792-9500
メール：kankyo@city.uonuma.niigata.jp
HP：http://www.city.uonuma.niigata.jp/
執筆
植物：富永弘　鳥類：桑原和寿　昆虫：横山正樹
平成28年3月発行
この印刷物は、古紙パルプ配合80%の再生紙、植物油インキを使用しています。